

## ●小学生の部

環境大臣賞 鈴木 暖音 (すずき はるね)  
「私が猫と歩む道」

「仔猫がごみ捨て場にすてられて、動物病院の先生が保護したんだって。」私は、母の口から出た言葉に耳を疑った。えっ、どういう事、と…。

私は、猫が大好きだ。物心ついた時から、私は猫という存在が愛おしくて仕方がなかった。猫を飼うのが私の夢。しかし、私は猫アレルギーで猫の近くに行くことも触ることもできない。だから、幼いころは父や母に猫のぬいぐるみを買ってもらい、ずっと一緒にいた。ミシンの苦手な母に頼み込んで猫のぬいぐるみの服を作ってもらったこともあった。

そんな私は、年々猫を飼いたい気持ちが強くなっていった。そのきっかけは、毎年約四万頭が殺処分されている現実を知ったからだ。一匹でも多くの猫を救いたい。私は、まず自分の猫アレルギーを治そうと考え、あらゆる病院へ行き、薬や漢方を飲んだ。しかし、完全に猫アレルギーは治らなかった。でも、私はあきらめることができず、母に頼んで猫カフェへ連れて行ってもらった。十分から始まった挑戦も、最後には半日猫といってもアレルギーは出なかった。そんな時に聞いた母からの言葉…「ごみ捨て場」「仔猫」「保護」私はいてもたってもいられず、母にお願いして動物病院へ連れて行ってもらった。まだ手のひらに乗るくらいの小さな仔猫が五匹保護されていた。猫風邪をひいていて目が半分つぶれている猫や人間を怯えている猫がいた。私は涙が止まらなかった。同時に私が「この仔猫のお母さんになる」と、何も迷わず決意した。家に帰り、父と母に私の決意を話した。しかし、父は猛反対した。私のアレルギーのこともあるし、命の大切さをもう少し勉強しなさい、と言われた。私は父を説得させるため、必死で命の大切さや責任感を勉強した。動物病院にも、何回も通って仔猫達の病状を観察した。先生の懸命な治療で仔猫達は徐々に元気になっていった。父に私の熱意も伝わり、飼うことを許してもらえた。うれしくてたまらなかった事を今でもハッキリと覚えている。

私は、五匹の中で最も臆病なメス猫のお母さんになることができた。ほか四匹も引き取り手が見つかった。

あれから一年が経った。愛するキジトラ柄のカーロは元気に私と一緒にいる。カーロの特徴は、右足裏にハート模様があることだ。このハート模様を見ると、とても幸せな気持ちになる。私のアレルギーも今のところ症状は出ていない。奇跡だ…。

私は、一匹でも殺処分される猫が減る事を願っている。そして、しょう来は獣医師になって、カーロを助けてくれた先生のように保護猫活動をしたいと思い、今勉学に励んでいる。夢をかなえるために、私は前へ前へ進もうと思う。愛するカーロと共に…。